

稲の植える間隔を広くして労力軽減

要約

稲の植える幅を広くして、労力軽減と経費節減ができる技術を開発しました。経営規模が小さい農家が手軽に取り組める低コスト技術です。

研究成果の概要

1. 背景・目的

稲の間隔を広く植える水稲疎植栽培は、経営規模が小さい稲作農家でも取り組める省力・低コスト技術として期待されており、本県において安定生産できる栽培指針の作成に取り組みました。

2. 内容

- 37～50(株/坪)の疎植栽培は、図1のとおり県内の広い地域に導入可能です。
- 追肥を省略した省力施肥法でも、通常の収量が得られます。
- 生産コストを、5～10%低減することができます。
- 「水稲疎植栽培マニュアル」を作成し、指導機関に配付しました。
- 平成25年度の実施面積は、当初計画を上回る約400haまで伸びました。

3. 活用等

経営規模が小さくとも生産意欲の高い農家が、県産米を安定生産するために活用できる技術です。

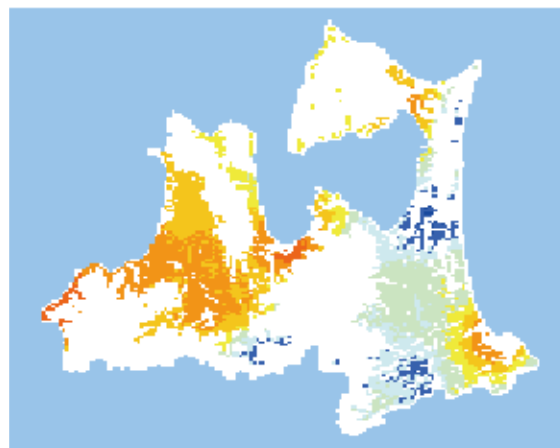


図1 疎植栽培可能地域

注) 栽培しやすい順: 赤 > 黄 > 緑 > 青

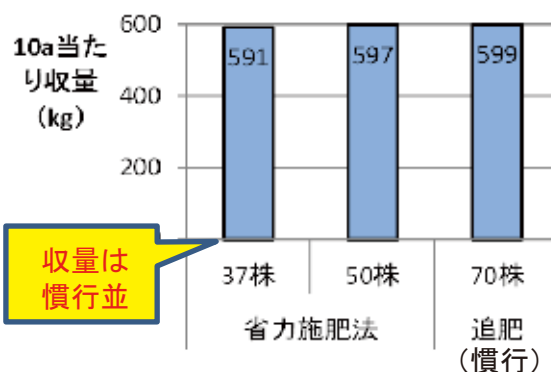


図2 追肥を省略した施肥法

関連情報

- この技術を活用することにより、育苗・田植えの労力軽減と育苗関連経費の削減が可能となります。
- この成果は、「まっしぐら」、「つがるロマン」のデータをもとに作成しています。
- 栽培マニュアルは、県内各JA、県農業普及振興室、農林総合研究所で入手できます。

農林総合研究所 作物部

Tel. 0172-52-4396

E-mail nou_souken@aomori-itc.or.jp

Aomori Prefectural Industrial Technology Research Center
地方独立行政法人 青森県産業技術センター

